

単元名: Beyond Borders		
氏名: 内海 拓人	学校名: 京都市立大淀中学校	
担当教科: 英語	実践教科: 英語	
時間数: 7時間	対象学年: 3年生	人数: 25人

【実施概要】

<p>【1】単元のテーマ・目標 (評価の観点を意識して設定)</p> <p>自分の願いと他の人たちの願いを比較し、場所や状況の違いでどのような変化があるのかを知る。</p> <p>また、自分たちとは異なる状況で困りを抱える人たちのために何が出来るかを考える。</p>		
<p>【2】 単元の評価 規準</p>	(ア) 知識・技能	仮定法(wish / if)と主語を説明する関係代名詞などに理解をもとに、国をこえて助け合うことの大切さについて、理解したり伝えたりする技能を身につけている。
	(イ) 思考・判断・表現	国をこえて助け合うことの大切さを理解したり伝えたりするために、国際社会の状況について書かれた文章の概要を捉えている。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	国をこえて助け合うことの大切さを理解したり伝えたりするために、国際社会の状況について書かれた文章の概要を捉えたり、意見や感想を伝えたりしようとしている。
<p>【3】 単元設定の理由</p> <p>✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観 ✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容</p>	<p>【生徒観】</p> <p>生徒は修学旅行とその事前事後学習を通し、SDGsの背景や概要について学習し、「地域の幼稚園児に伝えられるように」というコンセプトを持って、身の回りから実践できる行動や、SDGsの促進を伝える学習をしてきた。また、英語の学習では、単元を通してSDGs達成のための活動だけではなく、国際協力や相互協力といった取り組みの大切さについて学習を重ねてきた。</p> <p>一方で、実生活とは言えば、他地域との交流が少なく、同世代に関わらず他者との関わりが少ない生徒が多い。これまでに行ってきた学習でも、「自分の魅力」や「地域の魅力」についてと伝える活動に困りを抱える様子が見られた。</p> <p>【教材観】</p> <p>本単元は、中学3年間最後のユニットとして、国際協力、相互協力、相互援助というテーマを取り上げている。具体的な内容としては、日本のランドセルをアフガニスタンに送るという実際の取り組みが紹介されている。世界では学校に通うことができず、読み書きもできない子ども達が多く存在している。このような子ども達を、国境を越えて支援する意義について考えることができる。また日本は、多方面にわたり他国との相互依存に頼っていることも踏まえ、他国と健全な関係を保つためには、自分たちに何が出来るのかを発信していくことができる単元となっている。</p>	

【指導観】

教科書本文や文法を活用しながら、自分たちの生活から生まれる願いや希望と、発展途上国など、自分たちの生活とはかけ離れた状況で生活する人たちの願いや希望を比較することで、改めて自分たちの生活の魅力に気付いてほしい。また、異なる環境での生活を知ること、今の自分たちだからこそ出来ることや取り組めることについて考え、行動しようとする意志を育てたい。

単元では支援の例を大きく取り上げているが、授業者自身がペルーで一番強く感じたのは一方的な支援という枠を超えた相互の信頼関係である。国や地域に対する支援をするにしても、そこには歴史的な背景や理由がある。ペルーの場合はかつての日本の移民政策が大きく関わっている。ペルーに移り住み、生活をしてきた人たちの日本やペルーに対する思いは、実際に現地で聞かなければ、学ばなければ決して理解できないものであった。教師である授業者自身がしっくりきていなかった国際協力という言葉を生徒が正しく理解し、実現のための行動に向けて育成するためには、他者理解の心が必要不可欠だと改めて感じた。ペルーの歴史を語らなくとも、当事者の心情について想像し、考えながら学習することが出来るように進めていきたい。

【設定時に想定された生徒の変容】

通常の単元教材を扱っているだけでは、遠い地域の関係のない人たちという認識だけで終わってしまっていたかもしれないが、ペルーを含む、他国の生活を交えて話すことで、より鮮明なイメージを持って自分たちの生活との比較ができる。異なる世界と比較することで、自分たちの生活にある魅力も改善点もより深く理解し、よりよい生活を作るために必要なことが何かを考えることができる。また、支援という意味の国際協力だけではなく、他者の気持ちを理解しようとする事、その背景に目を向けようとする事に積極的になってほしいと思う。また、大きい規模の話をも自分自身の話に引き付けて考えることで、日々見逃しがちな身近な生活においても、その気持ちと意思を持った関りができるようになる。

【4】展開計画(全7時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 本時	<ul style="list-style-type: none"> 単元の概要と目標を知り、ゴールへの見通しを持つ。 wishを使った表現の用法を理解する。 自身と異なる状況で生活する人たちの様子を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題から自分たちの願いや夢について伝える表現を復習する。 自分たちの現状では叶えることが難しそうな願いについて伝える表現を知る。 国や地域によって異なる状況や気候・物価などを確認する。 海外でのボランティア活動に取り組む学生の映像を見て、ユニット全体の概要を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイント New Horizon3の動画
2	<ul style="list-style-type: none"> wishを使う仮定法の用法を復習、練習する。 教科書本文内容を捉える。 ifを使った仮定法の用法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットセンテンスを用いた質問をしたり、答えたりして、用法と使用場面を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイント New Horizon3の動画

3	<ul style="list-style-type: none"> ・ifを使う仮定法の用法を復習、練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「もしも～だったら、〇〇は…する／できた。」という文を使い、自分たちの想像の世界を考え英訳する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・New Horizon3の動画
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ifを使う仮定法の用法を復習、練習する。 ・教科書本文内容を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読練習を中心に、ペアで対話の内容を捉える。 ・練習プリントを用いて、活用に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・New Horizon3の動画
5	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文内容を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出語彙や語句を調べながら、グループで文意を読み取り、まとめる。 	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文内容を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出語彙や語句を調べながら、グループで文意を読み取り、まとめる。 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場に立って、どうするか考えて伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇の国で暮らしていたら…」「家族や友達が困っていたら…」など、の状況で自分がしたいこと、自分が周りの人たちのために出来ることについて考える。 	

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (8分)	1. Warm-Up ・Greeting ・Guess what game ペアで順番に、お題となった物を相手に伝えるように英語で説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアの会話で使用された表現を板書することで、交代後の活動をレベルアップさせるように意識する。 	パワーポイント
(10分)	2. Small Talk ・What do you want to have for dinner today? ・What do you want for Christmas? ・What do you want to do during winter vacation?	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に身近な話題から展開し、叶う叶わないに関わらず自由に発言させる。 ・すぐに生徒個人を指名せず、ペアで応答する時間をとる。 ・正確性を求めすぎず、リキャストで訂正する程度に留める。 	パワーポイント
展開 (12分)	3. Whose Wish Quiz ①I wish I could eat sushi at a lower price. (Japan / America) ②I wish I had any pets. (Japan / Brazil) ③I wish I could take a bath for longer time. (Japan / Australia)	<ul style="list-style-type: none"> ・物価、ペット飼育率、水道代、交通手段や渋滞状況、生活の違いやそれぞれの理由について意見を求めながらクイズを出題する。 ・必ずそれぞれの答えに対する理由を合わせて尋ね、根拠となる知識を引き出すように意識する。 	パワーポイント

(6分)	<p>④I wish I could drive a car safely. (Japan / Peru) ⑤I wish I could use a public toilet freely. (Japan / Italy)</p>		
(10分)	<p>4. Volunteer in Afghanistan 大学生がアフガニスタンで建築や開発に関わるボランティアを通し、将来の進路や希望を掴んでいく動画を視聴する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> •動画内では男子大学生が「自分の趣味や楽しみの一つとして、ボランティアに参加することも良い」と語っている。 •Unitタイトルの“Beyond Borders”の通り、国を越えて協力することの大切さだけではなく、外に目を向けるからこそより強く見えてくる周囲の様子や現状があることを強調し、単元末の内容に繋げる。 •班隊形になって取り組ませることで、個々の疑問点を解消させ合うようにする。 •班で答え合わせをさせきる。 	<p>New Horizon 3 Unit6の動画教材</p> <p>東書ワークシート</p>
まとめ (4分)	<p>5. Practice 練習プリントで、wishを使う英文の用法を確認する。</p> <p>6. Closing 多く見られた間違いを取り上げて、文法上の注意事項として伝える。</p>		
<p>【6】本時の振り返り</p>			
<p>単元の導入として日本と他国とを比較するための情報として、ペルーを含む外国の状況を活用した。他の単元同様、生徒にとって身近な話題とそうでないものを組み合わせることで、文法や教科書本文内容の学習にスムーズに入ることができた。生徒は外国に関する話を情報として聞くよりも、教員の語るエピソードとして聞く方が強い関心を持ってくれる為、知識ではなく経験として語ることがより出来るようになりたいと思った。</p>			
<p>【7】単元を通した児童生徒の反応/変化</p>			
<p>・「外国の話聞くことは面白いし、話をする先生が楽しそう。」・「海外の生活や様子について話を聞くと、行って見てみたいと思います。ボランティアの動画を見て、自分も大学生になったらやってみたいと思った。」・「今回の内容は自分とは遠いものだけど、自分でも簡単にできることがあることが分かった。」・「仮定法の文はイメージがしやすかったから英語にするのが簡単だった。wishとif. 過去形とwould, couldを使う。」・「クイズが面白かったけど簡単やった。他のも見たい。」・「日本では不登校の人以外は学校に行くのが当たり前と思っているけど、家の仕事で行けない人が沢山いることに驚いた。」</p>			

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

単元の1時間目に、見通しを持った目標と単元末活動の内容が分かりやすいかそうでないかで学習意欲が大きく変わってくる。この学年の生徒たちは、反復練習に多くの時間を割かなければ学習項目の定着が難しい。そのため、目標や活動内容についても単元を通して何度も伝え、説明し、練習している。今回の様に、単元末にパフォーマンス課題を行なわない場合は、それが難しい為、実生活と海外との比較のような遊び感覚で学習内容や異文化に目を向けることが出来る活動を導入で活用した。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

本単元に入る前から、様々な場面でペルーを含めた様々な異国の文化や様子を伝えながら授業を組み立ててきた。例えば、「日本ほど安全な国は他に無い」と海外の人たちが口にする理由は何か。食生活や文化、何が大切で何は重要視されないのかなど、家庭や地域ですら多様な違いがあるのだから、国が変われば違って当たり前だということを伝えてきた。その為、今回のユニット指導において活用した国の比較においても、「前に見た国はこうだった。」などと、これまで英語や社会の授業で学習してきた内容や知識を活用しての発言が多くなってきていた。

(授業後)

導入に本文内容とは別の情報を加えたり、自身の意見や気持ちを伝えたりする時間を与えることで、授業や外国自体に興味をもって会話や質問をする姿が多く見られた。クイズを更に要求する生徒もいれば、知識を生かして何か別のクイズを作ることが出来ないかと、そのための時間を要求する声もあった。しかし、中学校英語最後の単元ということもあり、内容以上に文法項目に強い関心がある生徒が多い様子が見られた。本時の授業後に行なうのは文法事項の確認と、学びたくても学ぶことができない子どもたちを救うためのキャンペーンについての読み取りである。単なる文法練習と読み取りで終わるのではなく、現地で生活する人たちの気持ちを想像しながら読み進めることで、自分たちの生活にも目を向けて、自分たちに出来ることやしたいことについて言葉にしてもらいたい。授業者自身が知らなかった情報や、思いもしなかった気持ちを大人であり教師である授業者から発信することの意味は大きいように思う。知ることが全てではないが、知らなければそのまま流されていることが沢山あるということを今後の授業で伝えたいと思う。

【8】自己評価

1. 苦労した点

特別にペルーに関して何かを学習するわけではなく、ペルーを含めた諸外国についての情報を活用した授業なので、授業の組立については、普段同様であるから困りは無かった。しかし、どの部分が教材として適切かを考えることにはどの単元でも時間がかかった。別単元においては、他国の状況例として、時間をかけてペルーについて伝え、考えてもらう時間を取った。生徒の興味関心を引き付けることはできるが、話したい全ての内容を授業に繋げることは難しく、取舍選択に苦労した。

<p>2. 改善点</p>	<p>学年事情も関係しているが、単元の学習を始めてから単元末の活動をするまでに時間が空いてしまうことが一番の改善点だ。せっかく引き付けられた生徒の興味関心も、日が経つにつれて薄れてきてしまう。今回の授業に限った話ではなく、どの単元においても、興味関心の持続ということが悩みの種となっている。今回の授業では、時数を気にしなければ、生徒の希望に沿って、日本と異文化を比較するクイズを作るための時間を取ることが出来れば良かった。</p>
<p>3. 成果が出た点</p>	<p>単元末活動に向けての効果的な動機付けができた。最終に予定している課題設定とは別の内容で取り組んだ対話・口頭練習では進出表現を確認しながら自分の気持ちを懸命に伝えようとする姿が見られた。また、単元の学習の中でALTに入ってもらえる時間が取れたため、授業者が提示したものはまた別の視点からの経験談を聞かせることもできた。体験・経験からくる情報や知識が一番生徒の興味関心を引くため、言語学習に移行するための良いきっかけとすることが出来た。</p>
<p>4. 備考 (授業者による自由記述)</p>	<p>夏の出発前に生徒アンケートを取っていたこともあり、多くの生徒が今回の研修について興味を持ってきていた。授業内外において様々な質問を投げかけてくれることがとても嬉しかったし、その意欲を学びに還元したいと強く感じた。今回の授業計画ではUnit6という単元を取り上げたが、どの単元でもどの教科においても、伝えるのではなく、語り、考えさせることが出来るようにしなければならない。今回の経験を経て、改めて、子どもたちの琴線に触れる知識と経験を持った教員でありたいと思った。</p>

添付資料:授業で用いたパワーポイントスライド



参考資料:

- ・アメリカとの値段比較
[家族3人で1万円超 アメリカの『くら寿司』が日本とは比べものにならなかった - grape [グレイプ] (grapee.jp)]
- ・ブラジルとのペット飼育率比較
[[「グローバルのペット飼育率調査」(gfk.com)]]
- ・オーストラリアとの水道代比較
[オーストラリアの水道水事情や水不足について現地在住の日本人女性に聞いた (waterserver-takuhai.jp)]
- ・ペルーとの交通渋滞の比較
[ペルー国 統合交通システムのための交通データ利活用分析技術普及・実証・ビジネス化事業業務完了報告書]